

卷頭言

昨年は北陸新幹線金沢開業とともに、金沢城跡では橋爪門二ノ門等の復元、玉泉院丸庭園の再現整備などが行われ、前年を100万人も上回る約225万の方々が、全国から金沢城跡を訪れたと聞いております。このように、県民はもとより県外や国外からも金沢城に注目が集まっています。さらに正確で信頼のおける情報発信を充実させるには、調査・研究を進める必要があると考えております。

本号では、城の災害史に関する論文、現在取り組んでいる編年史料集に収録する二次史料の解説、および河北門跡から出土した鉄矢に関する基礎的考察、また、前号に引き続き金沢城建物配置図の文字記載を比較検討した研究ノートを収録することができました。

このほか、藩祖利家から四代光高に至る藩主および正室の健康状態と政治動向の関連を考察した池田論文、袖吉氏による「小川清太見聞録」の史料紹介を掲げることもできました。原稿をお寄せいただいた所員はじめ各位に篤く御礼申し上げたいと思います。

最後に、本書が金沢城に対する高い関心に応え、金沢城と金沢城下町に関する理解の一助となり、近世城郭史研究に資することを願つて止まないことを申し添え、刊行の挨拶に代えさせて頂きます。

平成28年3月

石川県金沢城調査研究所
所長 木越 隆三